石岡市立東成井小学校
学校だより　２５号
令和５年１１月１０日
校長　　石﨑　重臣

太郎・次郎

「太郎・次郎」は，校庭にそびえるいちょうの木です

【組織目標】児童が主役　みつけよう　かんがえよう　やってみよう～認める　寄り添う　支える～

一手間かけると、よいことが…！

１１月２日（木）に１、２年生の親子さつまいも掘り体験、家庭教育学級開級式がありました。

さつまいも掘り体験では、５月に植えた苗が大きく育ったことを確認しながら、収穫を楽しむことができました。今年は保護者の皆様といっしょにいも掘りができたこともあり、子どもたちも大喜びでした。

今回のさつまいも畑の支度を調えてくださった、交通安全指導員の中村さんのお話によると、今年は例年になく大収穫だったとのことでした。その秘密は「畑に少し肥料を混ぜてみた」ことがうまくいったということだそうです。この一手間が、大きくて立派なさつまいもの収穫に結び付き、１、２年生の子どもたちや保護者の皆様の喜びにつながったことを思うと、中村さんに感謝です。ありがとうございました。

いも掘りの後に行われた家庭教育学級では、柿岡小学校栄養教諭の勝村先生をお招きして、「親子で考える食育」について講話をいただきました。食べる姿勢や、お箸の使い方、食器の持ち方など、「１、２年生のうちに覚えてほしいこと」や「朝食の大切さ」「食べ方は生き方につながる」など、参考になる話をたくさん伺うことができました。

講演を拝聴して、私の心に残ったことは、「食事にもう一品加えてみる」という工夫のことでした。朝食にただ白米を食べるだけでなく、ふりかけをかけると栄養素が増えること、納豆を加えればタンパク質がとれること、さらに味噌汁を加えれば野菜がとれ、「バランスのとれた食事」ができあがること、など「なるほど！」と納得しました。

この「一手間かける」ことは、目の前にあるものを「よりよいもの」に変えていくことであり、私自身の仕事に対する「教訓」であるとも考えています。世間では「時短」「合理的」「効率性」という言葉が流行しています。でも、人と人が関わる教育において、「一手間」は「心配り」であり「アイディア」であり、人間性を豊かにするものだと私は考えます。「大したことではない」けれど、それで十分！何かを「ちょい足し」してよりよいものを求めていけると、心も豊かになるはずです。東成井小学校は、一手間かけることを惜しまない教育活動の展開を、これからも目指していきます。

「なるいっこ教育座談会」開催しました！

１１月７日（火）に「なるいっこ教育座談会」を開催しました。今年度が初めての試みでしたが、10名の保護者の方々がご参加くださいました。本校の教育活動の取組についての説明、授業参観案内の後、座談会を行いました。座談会では、「学校行事」や「夏休みの宿題」「タブレットの使い方」についてなど、たくさんのご意見やご要望をいただき、終始和やかな雰囲気で、話し合うことができました。今後の学校経営に生かしていきたいと思います。また、11月24日（金）には授業参観・学年懇談が予定されています。さらに多くの皆様からお気付きの点を伺うことができましたら幸いです。何とぞよろしくお願いいたします。